

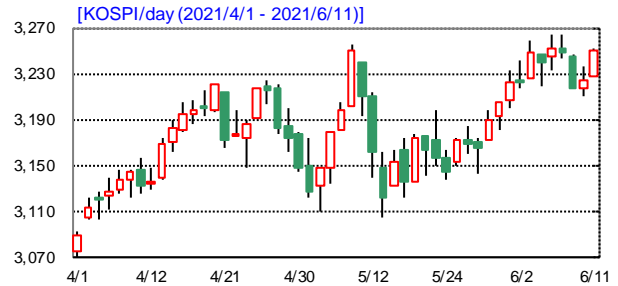


【韓国】 総合指数は週間で0.3%高と4週続伸、今週はFOMCに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%高と4週続伸。前週末の米株高の流れを引き継ぎ、週明け7日は約1カ月ぶりに過去最高値を更新したが、8-9日は軟調に推移した。高値警戒感に加え、1-3月期の実質国内総生産（GDP）改定値が速報値から上方修正されたことを受けて韓国国内の景気回復が意識され、早期利上げへの警戒感が重荷となった。米国の量的金融緩和の縮小が焦点となる中、米消費者物価指数（CPI）の発表を前に様子見ムードも強まった。一方、10日は半導体やIT株が買われて3日ぶりに反発。11日は米株高や好調な輸出データを支えに続伸して終えた。今週は値固めの展開か。金融緩和の後退懸念が引き続き警戒されそう。15-16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）に注目。国内では5月貿易統計改定値が発表予定。

▼指数チャート

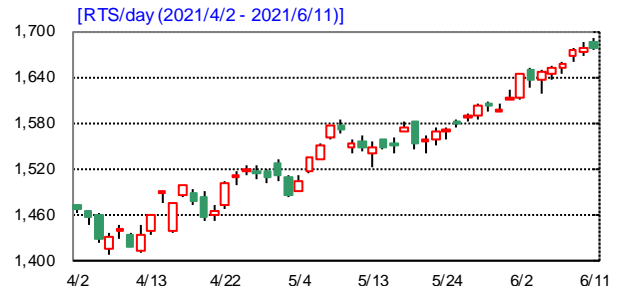


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.9%高と4週続伸、今週は引き続き堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.9%高と4週続伸。原油高やルーブル高、米ロ関係改善期待が追い風となった。堅調な原油相場を受けて週前半に小幅ながら続伸すると、ロシア中銀の利上げ見通しを背景にしたルーブル高や原油相場の続伸、米ロ首脳会談への期待を背景に11日まで6営業日続伸した。ロシア中銀は11日、政策金利を0.50%引き上げたが、ルーブル高や原油高を背景にセンチメントは良好だった。RTS指数は11日に2012年3月以来となる1692.47ドルまで上昇し、1678.57ドルで終了した。ブレント原油は週間で1.1%上昇し、ルーブルは対ドルで1.3%上昇した。個別ではダイヤモンド採鉱のアルロサが12.0%高、鉄鋼のセヴェルスターリが5.3%高となった一方、産金のポリュスが4.1%安。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート



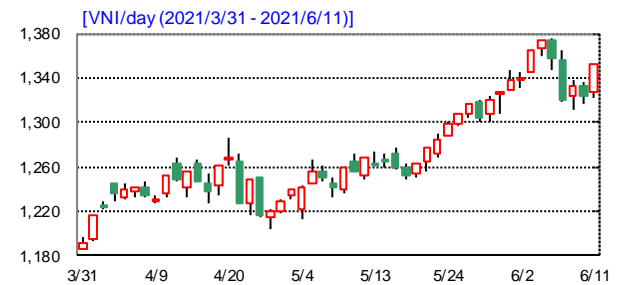
【ベトナム】 ベトナム指数は1.6%安と6週ぶりに反落、今週は高値圏でもみ合い

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.6%安と6週ぶりに反落。高値警戒感を背景に利益確定売りが優勢となった。前週まで5週続伸し、先週は最高値更新を連発したが、心理的節目の1400ポイントを前に利益を確定させようとの思惑が強まった。週明け7日は金融株を中心に売られ、指数は7営業日ぶりに反落。一時1375.74ポイントをつけ、場中の最高値を更新したが、1.1%安で終了。8日は利益確定売りが一段と強まり、指数は2.9%安と大幅に続落した。9-10日はもみ合い、11日は2.1%高と反発したが、前週末の水準に届かなかった。個別ではサイゴンビール・アルコール飲料が6.8%高となった半面、ベトナム投資開発銀行が7.8%、軍隊商業銀行が5.2%、ペトロベトナム・ガスが4.8%下落している。今週は高値圏でもみ合いか。

▼指数チャート



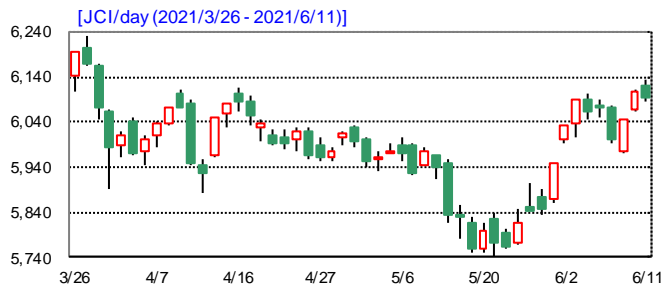


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、4月の小売売上高が17カ月ぶりに前年超え

ジャカルタ総合指数は週間で0.5%高と3週続伸。売り買いが交錯した1週間だった。週初の7日は小幅に反発した一方、8日は国内の新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念が広がった影響で前日比1.2%安と反落。ただ、9日に買い戻されると、10日は4月の小売売上高が前年同月比15.6%増と17カ月ぶりに増加に転じたことが好感され、指数は前日比1.0%高と続伸した。週末の11日は3日ぶりに反落して取引を終えている。今週は15日に5月の貿易統計が発表されるほか、17日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。外部要因では15-16日に開催される米FOMCが意識されそうだ。

▼指数チャート

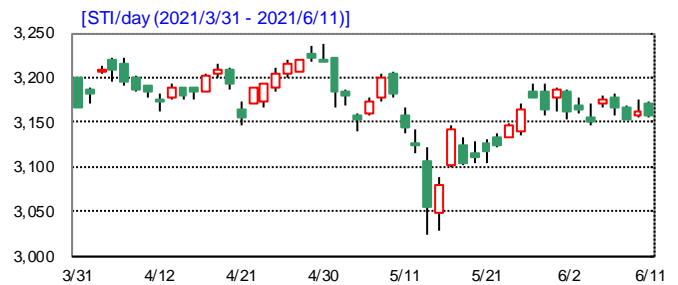


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は0.2%高、今週は5月の非石油地場輸出に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で0.2%高と反発。1週間を通じて、不安定な値動きが続いた。週初の7日は、前週末に発表された5月の米雇用統計で非農業部門雇用者の増加数が市場予想を下回り、インフレ懸念が後退した効果で反発。8-9日は売り優勢の展開となったが、10日は新型コロナウイルスの新規感染者の減少を受けて、保健省が14日から規制を段階的に緩和する方針を示したことが好感されて買われ、指数は3日ぶりに反発した。ただ、11日は反落して取引を終えている。今週は17日に5月の非石油地場輸出が発表される予定。外部要因では、中国の5月の固定資産投資や鉱工業生産が注目されそうだ。

▼指数チャート

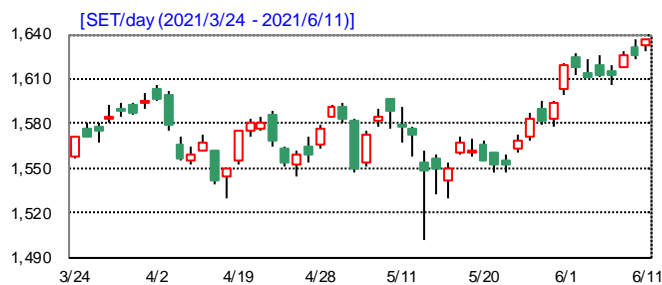


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.6%高、中間配当の支払い認可で金融株が上昇

SET 指数は週間で1.6%高と4週続伸。好地合いが続く中、おおむね堅調な値動きだった。週初の7日は、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種が始まり、外国人旅行者の受け入れ加速に対する期待が高まった効果で、指数は3営業日ぶりに小幅反発。9日まで3日続伸した後、10日は小幅に下落したものの、11日は中央銀行が前日に国内の銀行各行が新型コロナの影響に対応できる資本金を保有していると判断し、条件付きで中間配当の支払いを認めた効果で金融株が買われ、反発して取引を終えた。今週も国内の重要イベントが少なく、米中の5月の経済指標の内容など、外部要因が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

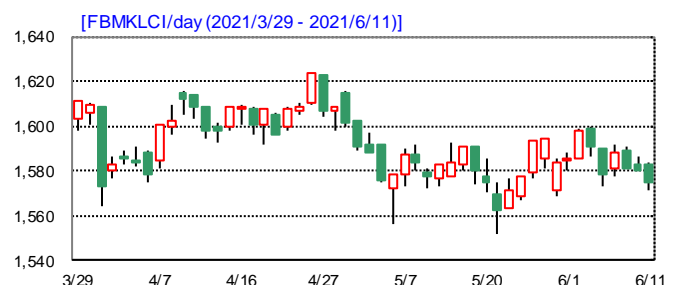


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は0.2%安、今週は都市封鎖の期限延長に対する反応が焦点

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.2%安と続落。週半ば以降にじりじりと下値を広げた。連休明けの8日は、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じたことが好感され、指数は反発。ただ、9-10日に引け際の利益確定売りで下落すると、11日は4月の鉱工業生産が前年同月比50.1%増、小売売上高が56.4%増と好調だったものの、全土で実施中の都市封鎖の期限を翌週に控え、延長の可能性を含む政府の決定に対する様子見ムードが広がり、結局、3日続落して引けた。今週は国内の経済イベントが少ない中、11日の取引終了後に発表された都市封鎖期間の2週間延長に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。